

『歌枕』の地 福島

新たな街道の「宿場町」を目指す

福島市長(福島県)

小林

香



都人の憧れの地『みちのく』

元禄2年(1689年)3月、松尾芭蕉は、門人曾良を伴い、東北、北陸の旅に立出した。旅の目的は、古来多くの歌人たちによって和歌に詠まれた『歌枕』ゆかりの地の探訪にあったとされている。この時の記録が『おくのほそ道』である。

『歌枕』にゆかりの地は、山城、大和、近江など都に近い所に多くあったが、次に多いのは東北地方の陸奥・出羽で、都人にとっての未知の国『みちのく』は一種憧れの地であったものと思われる。

『古今集』源融の名歌

福島市の中心市街地にそびえる信夫山の麓から阿武隈川の文知摺橋を渡った先に文知摺観音堂があ

り、境内には『文知摺石』が残されている。

みちのくのしのぶもぢずり誰ゆゑにみだれむと思ふ我ならなくに古今集の名歌で知られた歌枕『信夫摺』ゆかりの石である。

作者の源融は、「源氏物語」の光源氏のモデルともいわれる貴公子であるが、貞観6年(864年)、東北の名勝地を巡る旅で『文知摺



文知摺石

石』にも訪れたとされている。歌枕『信夫摺』は、源融以降も、藤原定家や松尾芭蕉、正岡子規など日本を代表する歌人たちに時代を超えて詠い継がれてきた。

福島は奥州街道の要衝

私事ではあるが、松尾芭蕉に倣い、東京深川から『おくのほそ道』を歩いている。東日本大震災の発災により文知摺観音までで中断している状況ではあるが、街道を歩いて感じたのは、一部に消滅した個所もあるが、拡幅や線形の変更はあっても、芭蕉が歩いた当時のルートが意外に残っているということであった。

福島市は平均海拔60m前後、周囲を山に囲まれた盆地である。この信達盆地(福島盆地)は、古代に

は湖であったとされ、信夫山から湖水地方に吹き降ろす風に因み、吹き島(福島)になったという地名由来の伝承がある。

陸地化して以降、一帯は「杉妻荘」や「杉目荘」と呼ばれていた。天正18年(1590年)、蒲生氏が今の福島県中通りと会津を支配するようになる。伊達氏の旧領信達二郡(信夫郡と伊達郡)は、配下の木村氏に与えられて、木村氏は大森城に入った後杉妻城に移り大森城下にあった柳町・荒町・中町・本町なども移転させて新たな城下町を整備。「福島」と名付けた。

信達地方には、木村氏以降、上杉、本多、堀田、板倉の各氏が入り、一時は天領にもなっている。杉妻城や大仏城とも呼ばれた福島城は、今の福島県庁付近を中心



現在の奥州街道（旧国道4号）

に築かれていたが、県庁敷地の南西側には当時の土塁の一部が残っている。

福島城下には、阿武隈川舟運の福島河岸や船場河岸が拓かれ、奥州街道と奥州街道から分岐する米沢街道や会津街道、相馬方面へ延びる中村街道などもあって、水陸交通の要衝であった。

新たな街道とまちづくり

福島県の太平洋沿岸に位置する相馬市から内陸部の伊達市、桑折町を経て、東北の縦軸である東北縦貫自動車道を経由し、県境を越えた山形県米沢市、さらには秋田県横手市までの総延長268kmを「東北中央自動車道」として、現在整備されている。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災においては、内陸部の福島市と、沿岸部の相馬市を結ぶ横断道路が寸断され、避難、支援物資の搬入などに大きな影響をも

たらした。震災後、改めてインフラの重要性が認識され、相馬から東北縦貫自動車道まで一部事業化が進められていた区間については「復興支援道路」と位置付けられ、これまでにないスピードで事業が進められている。

一方、東北縦貫自動車道から接続し、福島と米沢を結ぶ東北中央自動車道は、大雪や大雨の影響を受ける現道に代わる道路であり、初代山形県令であった三島通庸により作られた万世大路（現国道13号）の第4世代の道路として整備され、平成29年度の開通が予定されている。

古来沿岸と内陸部を結ぶ街道は、地域の生活、文化の繁栄に大きく寄与してきており、復興支援道路を『現代の街道』とみなし、沿線地域が手を携えて連携と交流による繁栄を目指す考えである。

復興支援道路が供用されれば太平洋沿岸部までの所要時間が1時間以内となり、海のない本市においても、港を活用したまちづくりを進めることが可能になる。

さらには、これまでの縦軸を中心とした物流のみではなく、横軸との交差による南東北のハブ的な

立地条件を生かし、街道という宿場町のような、活気あるまちを目指したいと思う。

全国街道交流会議「福島大会」の開催

来たる11月11日には、第11回目となる全国街道交流会議全国大会「福島大会」を開催することとなっている。「福島大会」は、新たな街道となる東北中央自動車道と相馬

福島道路等を連携・交流軸として、圏域の魅力と可能性を全国に向け発信し、各地域の自然・歴史・文化・産業を生かした広域交流により地域づくりに貢献していくことを目的としている。

実行委員会を構成する福島市、相馬市、伊達市、米沢市、桑折町をあげて歓迎する所存であり、皆さまの「福島大会」へのご参加を心よりお待ち申し上げます。

一口メモ

奥州街道

白河から三厩を八十九次でつなぐ一大幹線

奥州街道は、奥州白河を起点に現在の青森県三厩に至る八十九次の街道である。

羽州街道と並ぶ近世奥州の幹線である。古代の東山道や中世の奥大道の道筋を踏襲し、各宿駅の町割や道が確定されて近世初期に街道沿いの藩により整備された。

整備にあたっては、大名の参勤交代路となった幹道整備が優先され、次に領内道の整備が取り組まれた。奥州街道を参勤交代路として利用した松前・奥羽の大名は、文政5年（1822年）当時二十九家であった。これは、中山道に匹敵する大名数である。



企画協力…全国街道交流会議「街道交流首長会」